

## 厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業） 分担研究報告書

生活・療養環境による要望特性に応じたがん情報提供・相談支援体制の在り方：  
地域ニーズの検証と活性化人材の育成と普及に関する研究  
- がん診療連携拠点病院におけるがん情報提供・相談支援の実効性解析，  
活性化支援人材介入モデルの検討 -

研究分担者 片淵 秀隆 熊本大学大学院生命科学研究部 産科婦人科学 教授

### 研究要旨

がん対策推進基本計画の重要施策の一つである「がんに関する相談支援と情報提供」は、がん相談支援センターの低い認知度、施設間や地域間格差などによりいまだ十分に機能していない。本研究では、地域の情報提供・相談支援体制を効率化するために不可欠な人材の育成を通じて、相談支援・情報提供体制の在り方を考え、療養を含めた地域情報づくりモデル等を提案することである。本年度は、がん医療ネットワークナビゲーターの育成活動全体を統括するとともに、情報提供体制に関するアンケート調査の結果を踏まえた聞き取り調査の協力と、熊本県で既に育成を開始した活性化人材介入モデルに関する活動を継続した。特に育成したがん医療ネットワークナビゲーター（以下、がんナビと略す）の継続した支援の枠組みの構築を始めた。これらの活動は、分担研究項目であるがん診療連携拠点病院におけるがん情報提供・相談支援の実効性解析、活性化支援人材モデルの検討を行うために必須のステップである。具体的には、熊本県がん診療連携協議会を通じ、がん診療連携拠点病院におけるがん情報提供・相談支援の実態把握を試み、その利用率の向上への課題を明らかにした。また、熊本県における情報提供・相談支援に関わる施設へのアンケートによる「がん患者さんご家族向け支援の実態調査」を実施して、情報、窓口の整備、認知、啓発、研修教育の機会の確保などの課題を明らかにし、上記に対する聞き取り調査をがん医療ネットワークナビゲーターと共にに行った。熊本県での活動を促進し、シニアナビゲーター計13名、ナビゲーターを4名輩出、養成制度への参加者のべ40名を得た。また、上記部会相談員ワーキンググループの会議や県内で開催される講演会や研究会等にナビゲーターの参加を促し、情報共有と顔の見える関係づくりを行った。

### A．研究目的

- 1) それぞれの地域で異なる多様なニーズに対応し、その地域に存在する求められるものへと正確につなぐ「地域完結型情報提供・相談支援体制」の確立を目指す。その前提として必要とされる「がんの情報提供や相談支援に関する地域のニーズや問題点」を明らかにする。
- 2) 地域の情報提供・相談支援体制とこれを補強する人材養成プログラムとを検証し、地域ニーズの抽出に基づく相談支援・情報提供体制の在り方、これを効率化する人材の育成と介入モデル、療養を含めた地域情報づくりモデル等を提案する。

### B．研究方法

- 1) 平成 29 年度に行ったアンケート調査の結果を踏まえて、抽出した施設への聞き取り調査を行う。聞き取り調査に「がんナビ」

が参加して、「がんの情報提供や相談支援に関する地域のニーズや問題点」と「活性化人材介入モデル」を有機的に結びつける。

- 2) 二次医療圏の薬剤師を対象に「がんナビ」により情報提供を行い、地域と職種に特徴的な「がんの情報提供や相談支援に関する地域のニーズや問題点」を明らかにする。
- 3) 「がんナビ」養成プロジェクト(H26-がん政策-一般-007)でモデル事業の対象県である熊本県において、養成のためのシステム作り、育成した「がんナビ」の現状の調査、活躍の場を提供できる体制、継続教育の保障、ネットワークを構築する。を行う。

### （倫理面への配慮）

本研究では介入試験は行わないが、モデル事業における評価は疫学研究の対象になると考えられ、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守してこれを行う。

## C. 研究結果

1) 熊本県における病院・診療所・地域統括センター・訪問看護ステーション・居宅介護事業所・保険薬剤薬局・市町村の窓口・保健所・公共図書館・患者会などのリストアップを行い、熊本県 521 施設へアンケートを送付した。その結果、191 施設から回答を得た(回収率: 36.7%)。その結果の詳細は、分担研究者である渡邊清高医師により報告された。アンケートに回答した施設に手挙げ方式で詳細な聞き取り調査を行った。

熊本県の複数の二次医療圏(人吉、芦北、熊本・上益城)の薬剤師を対象に「がんナビ」による「がんナビ」制度の説明を行い、アンケート調査にて「がんの情報提供や相談支援に関する地域のニーズや問題点」を収集した。

2) 熊本県におけるがん情報提供・相談支援に関わるがんナビの周知、育成、現状調査を行い、活躍の場を提供できる体制、継続教育の保障の体制の構築を継続した。

がんナビの周知・育成の活動として、1年に4回開催される熊本県がん診療連携協議会幹事会相談支援情報連携部会(以下、相談支援情報連携部会)(部会長: 片淵秀隆)の場においてがんナビの報告を毎回行った。会議の場を通じ拠点病院、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、行政へ情報提供を継続的に行った。県医科歯科連携協議会、県がん患者等就労支援ネットワーク会議において情報提供を行った。相談支援情報連携部会、県医科歯科連携協議会、県がん患者等就労支援ネットワーク会議、保健調剤薬局(在宅医療研修会)が主催した医療者向け講演会、相談支援情報連携部会、県がん患者等就労支援ネットワーク会議が主催した市民向けの公開講座とリレーフォーライブでがんナビの情報提供を行った。

がんナビの現状調査として、熊本県で既に認定された17名のがんナビと相談支援情報連携部会の部員との情報交換の場を2回開催し、実態の把握、意見交換、今後の支援の方向性について議論した。

活躍の場の提供の枠組みとして、熊本県がん専門相談員ワーキンググループと会議、研修会の参加を勧め、顔のみえる関係の構築と活動の場の模索を行った。継続研修を保障する仕組みとして、メーリングリストを構築し、相談支援情報連携部会が開催する研修会のみならず、県内の医療者向けのがんに関わる講習会やカンファレンス等を周知し参加を促した。

## D. 考察

本研究の背景には、がん対策推進基本計画の重要施策の一つである「がんに関する相談支援と情報提供」が未だ十分に機能

していないことがある。現在のがん診療連携拠点病院における「がん相談支援センター」の認知度の低さとともに、着実に増えて来ている相談件数、相談内容の高度化、多様なニーズに十分に対応するにはハード面、ソフト面ともに不十分であることは既に報告されている。「がん相談支援センター」の活動にも限界がある。そのためには、市井にあつてがんの情報提供や相談支援への手助けができる人材の育成が急務であり、この点に本研究の最大の意義がある。そのための活動は、地域間の大きな実情の差を考慮しながらも、全国展開をしていかなければならない。前年度行われたアンケート調査により、熊本県でもがんに関する相談支援と情報提供」のニーズは、二次医療圏、がん診療の時期によって異なることが明らかとなった。がん診療の診断・治療の初期は熊本・上益城医療圏で全県のがん患者が診療を受けているが、がん診療の後半では、がん患者が在住している各二次医療圏で診療が行われているデータがこの事実を裏付ける。引き続き様々な立場の人材ががんナビの候補者となるように周知活動を継続していく。特に、二次医療圏で活動している保健調剤薬局の薬剤師を対象に働きかけを強化していくことは重要である。同時に、養成されたがんナビの現状調査、「がん相談支援センター」との顔のみえる関係作り、地域で活動する場を模索の体制づくり、地域で必要とされている情報の取得の仕組み作り、地域での継続研修の場の提供を開始した。熊本県では先行した活動を継続し成果を全国に還元して行く予定である。

## E. 結論

本研究の目的を達するためには、まずがんナビを全国へ展開すること、次に養成されたがんナビに必要と考えられる、がん拠点病院での認知、「がん相談支援センター」との関係、活動の場の設定、継続研修の整備を続けることが必要である。地道な作業であっても、がん対策推進基本計画の目指すところを達成するためには、本研究のような活動は継続していく必要があると考える。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

#### 【書籍】

- 1) 三上幹男, 永瀬 智, 宇田川康博, 八重樫伸生, 片淵秀隆. 子宮体がん治療ガイドライン 2018年版, 日本婦人科腫瘍学会編, 金原出版, 東京, 2018
- 2) Katabuchi H, Ohba T, Motohara T. Cell Biology of the Ovary (1st ed. 2018): Stem Cells, Development, Cancer, and

- Clinical Aspects (Eds. H Katabuchi, T Ohba, T Motohara), Springer Nature Singapore Pte. Ltd, Singapore, 2018.
- 3) 宮原 陽, 片瀨秀隆. 卵巣癌・腹膜癌 (卵巣がん診療ガイドライン 2015 年版 (2015)). 門脇 孝, 小室一成, 宮地良樹監修, 日常診療に活かす診療ガイドライン UP-TO-DATE 2018-2019, メジカルビュー社, 東京, pp908-912, 2018
  - 4) 本原剛志, 片瀨秀隆. 腫瘍免疫. 柴原浩章編集. 実践よくわかる 臨床生殖免疫学入門, 中外出版社, 東京, pp23-32, 2018
  - 5) Motohara T, Katabuchi H. Emerging role of CD44 variant 6 in driving the metastatic journey of ovarian cancer stem cells. In: Cell Biology of the Ovary (1st ed. 2018): Stem Cells, Development, Cancer, and Clinical Aspects (Eds. H Katabuchi, T Ohba, T Motohara), Springer Nature Singapore Pte. Ltd, Singapore, pp73-88, 2018
  - 6) Tashiro H, Katabuchi H. Molecular Targeted Therapy for Epithelial Ovarian Cancer. In: Cell Biology of the Ovary (1st ed. 2018): Stem Cells, Development, Cancer, and Clinical Aspects (Eds. H Katabuchi, T Ohba, T Motohara), Springer Nature Singapore Pte. Ltd, Singapore, pp153-166, 2018
- 【雑誌】
- 7) 宮原 陽, 片瀨秀隆. 卵巣がん診療ガイドライン. 腫瘍内科 21(4): 448-453, 2018
  - 8) 相羽恵介, 片瀨秀隆. 学会の学術活動と社会的連携活動. 日本婦人科腫瘍学会雑誌, 36(2):118-123, 2018
  - 9) 杉山 徹, 片瀨秀隆, 青木大輔. 婦人科癌取扱い規約の変更の経緯と要点. 日本婦人科腫瘍学会雑誌, 36(2):181-185, 2018
  - 10) 永瀬 智, 山上 亘, 吉野 潔, 徳永英樹, 齋藤俊章, 片瀨秀隆. 婦人科悪性腫瘍の登録事業と公共性. 日本婦人科腫瘍学会雑誌, 36(2):186-192, 2018
  - 11) 境 健爾, 安達美樹, 方尾志津, 山崎浩, 緒方美穂, 廣松矩子, 村上誠子, 中城加南子, 後藤慶次, 藤本真之介, 米田宏之, 片瀨秀隆. 熊本地震におけるがん診療連携拠点病院のがん治療の状況と課題. 癌と化学療法, 45(9):1319-1325, 2018
  - 12) 境 健爾, 安達美樹, 方尾志津, 山崎浩, 緒方美穂, 廣松矩子, 村上誠子, 中城加南子, 後藤慶次, 藤本真之介, 米田宏之, 片瀨秀隆. 熊本地震におけるがん診療連携拠点病院のがん相談支援センターの状況と課題. 癌と化学療法, 45(9): 1311-1317, 2018
  - 13) 田代浩徳, 片瀨秀隆. 「卵巣腫瘍取扱い規約」から「卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約」-背景と意義. 癌の臨床, 64(3): 195-202, 2018
  - 14) 宮原 陽, 宇田川康博, 片瀨秀隆. 癌治療ガイドラインの進歩. 日本臨床, 76 suppl 2: 70-75, 2018
  - 15) Kondo T, Nakamura M, Kawashima J, Matsumura T, Ohba T, Yamaguchi M, Katabuchi H, Araki E. Hyperemesis gravidarum followed by refeeding syndrome causes electrolyte abnormalities induced rhabdomyolysis and diabetes insipidus. Endocr J. 2019 Jan 29. doi: 10.1507/endocrj.EJ18-0496. [Epub ahead of print]
  - 16) Yoneda M, Imamura R, Nitta H, Taniguchi K, Saito F, Kikuchi K, Ogi H, Tanaka T, Katabuchi H, Nakayama H, Imamura T. Enhancement of cancer invasion and growth via the C5a-C5a receptor system: Implications for cancer promotion by autoimmune diseases and association with cervical cancer invasion. Oncol Lett. 2019 Jan;17(1):913-920. doi: 10.3892/ol.2018.9715. Epub 2018 Nov 16.
  - 17) Takeuchi Y, Nakahara K, Nakajima M, Inoue Y, Matsumura R, Yamaguchi M, Katabuchi H, Ando Y. A 23-Year-Old Woman with Sudden-Onset Blindness of the Right Eye. J Stroke Cerebrovasc Dis. 2019 Jan 8. pii: S1052-3057(18)30731-6. doi: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2018.12.031. [Epub ahead of print]
  - 18) Ebina Y, Mikami M, Nagase S, Tabata T, Kaneuchi M, Tashiro H, Mandai M, Enomoto T, Kobayashi Y, Katabuchi H, Yaegashi N, Udagawa Y, Aoki D. Japan Society of Gynecologic Oncology guidelines 2017 for the treatment of uterine cervical cancer. Int J Clin Oncol. 2019 Jan;24(1):1-19. doi: 10.1007/s10147-018-1351-y. Epub 2018 Oct 5.
  - 19) Motohara T, Masuda K,

- Morotti M, Zheng Y, El-Sahhar S, Chong KY, Wietek N, Alsaadi A, Karaminejadranjbar M, Hu Z, Artibani M, Gonzalez LS, Katabuchi H, Saya H, Ahmed AA. An evolving story of the metastatic voyage of ovarian cancer cells: cellular and molecular orchestration of the adipose-rich metastatic microenvironment. *Oncogene*. 2018 Dec 19. doi: 10.1038/s41388-018-0637-x. [Epub ahead of print]
- 20) Watanabe T, Mikami M, Katabuchi H, Kato S, Kaneuchi M, Takahashi M, Nakai H, Nagase S, Niikura H, Mandai M, Hirashima Y, Yanai H, Yamagami W, Kamitani S, Higashi T. Quality indicators for cervical cancer care in Japan. *J Gynecol Oncol*. 2018 Nov;29(6):e83. doi: 10.3802/jgo.2018.29.e83.
- 21) Imamura Y, Tashiro H, Tsend-Ayush G, Haruta M, Dashdemberel N, Komohara Y, Tsuboki J, Takaishi K, Ohba T, Nishimura Y, Katabuchi H, Senju S. Novel therapeutic strategies for advanced ovarian cancer by using induced pluripotent stem cell-derived myelomonocytic cells producing interferon beta. *Cancer Sci*. 2018 Nov;109(11):3403-3410. doi: 10.1111/cas.13775. Epub 2018 Oct 24.
- 22) Erdenebaatar C, Yamaguchi M, Monsur M, Saito F, Honda R, Tashiro H, Ohba T, Iyama KI, Katabuchi H. Serum Prolactin Contributes to Enhancing Prolactin Receptor and pJAK2 in Type I Endometrial Cancer Cells in Young Women Without Insulin Resistance. *Int J Gynecol Pathol*. 2018 Jun 12. doi: 10.1097/PGP.0000000000000527. [Epub ahead of print]
- 23) Mikami M, Ikeda M, Sato H, Iwase H, Enomoto T, Kobayashi Y, Katabuchi H. The use of conization to identify and treat severe lesions among prediagnosed CIN1 and 2 patients in Japan. *J Gynecol Oncol*. 2018 Jul;29(4):e46. doi: 10.3802/jgo.2018.29.e46.
- 24) Hayata T, Chiga M, Ezura Y, Asashima M, Katabuchi H, Nishinakamura R, Noda M. Dullard deficiency causes hemorrhage in the adult ovarian follicles. *Genes Cells*. 2018 May;23(5):345-356. doi: 10.1111/gtc.12575.
- 25) Saito T, Tabata T, Ikushima H, Yanai H, Tashiro H, Niikura H, Minaguchi T, Muramatsu T, Baba T, Yamagami W, Ariyoshi K, Ushijima K, Mikami M, Nagase S, Kaneuchi M, Yaegashi N, Udagawa Y, Katabuchi H. Japan Society of Gynecologic Oncology guidelines 2015 for the treatment of vulvar cancer and vaginal cancer. *Int J Clin Oncol*. 2018 Apr;23(2):201-234. doi: 10.1007/s10147-017-1193-z.

## 2. 学会発表

- 1) 相羽 恵介, 片淵 秀隆, 有賀 悦子. 学校でのがん教育 横浜宣言 2016 : これからの展開 .がん教育実施体制構築への経緯と課題, 第 56 回日本癌治療学会学術総会 . 横浜, 2018. 10. 19.
- 2) 渡邊 清高, 調 憲, 浅尾 高行, 相羽 恵介, 佐々木 治一郎, 藤 也寸志, 竹山 由子, 片淵 秀隆, 境 健爾, 吉田 稔, 矢野 篤次郎, 加藤 雅志, 富田 尚裕, 西山 正彦. 6 都県における情報提供と相談体制がん医療ネットワークナビゲーターの普及に向けて . 第 56 回日本癌治療学会学術集会 , 横浜 , 2018.10.19

## G . 知的所有権の取得状況

本研究に直接関連する知的財産権の出願・取得はない。